

	所属	小G参加	オニヒトデ対策	小G参加	水産資源管理	小G参加	アンカーによるサンゴ損傷対策	その他
1	(財)自然環境研究センター		<p>これまでの駆除(地点と駆除努力量、駆除数)と毎年のオニヒトデ及びサンゴの分布はどのように変化しているのか。</p> <p>また、現在のオニヒトデ・サンゴの分布と今後どこを対象にどの程度の駆除作業を行う必要があるのか。わかりやすく説明する材料があれば、予算確保に役立つと思う。</p>		<p>水産資源管理は漁協や県の水産課で取り組まれていると思うが、具体的な目標はあるのか。また一般を対象にした管理について、白保で取り組まれている「魚垣」のように伝統的な利用に目を向けて持続的な利用をアピールするような、イベントから入る方法もあると思う。</p> <p>やはり具体的な目標が必要だと思うが、石西礁湖自然再生事業では設定されているのか。</p>		<p>アンカーによる損傷やダイバーによる損傷などの被害データや調査データはあるのか。</p>	<p>議事概要の中で「10年を目処に設定した短期目標達成に向かっているとはなかなか言えない」とありましたが、個別のワーキングで議論する前に、事業全体で現在の目標到達程度を分野別に評価し、今後短期目標年次までにどの分野にどう取り組んでいけばよいか決め、その上でワーキンググループで具体的な議論をする必要があるのではないかと。</p>
2	八重山サンゴ礁保全協議会	○	<p>オニヒトデの発生状況を知る人たちの連携を強化し、移動状況や経路などを予測し、現状の対処療法から一歩進んで予防対策を考えた仕組みを構築する等</p>					

3	竹富ダイビング組合	○	<p>本当に守れるところはどこか。 各エリア毎に優先順位を決めることが大事だと思う。 守れる、守るべき、守りたいを忘れていると思う。 各団体で話し合ってエリアを決めて1年を通して保全活動ができる場所を決めないと無駄な努力になる。もちろん余裕があるときは他のエリアの保全活動も重要。 個人的に守りたいところは個人に任せるしかない。</p> <p>また、各団体の補助金をまとめてくれるのは助かる。 各団体の情報共有をどのように行っていくかも課題。 最近オニヒトデの駆除作業中に事故があった。もう一度安全対策を確認したい。 竹富町ダイビング組合としては、組合員の安全を考えて事故に繋がらないよう酢酸注入を使用した駆除を推進していく。</p>			○	平成23年度鹿川中瀬の係留ブイ設置事業を本年度も継続し、関係各団体と調整し、設置に向け活動する。	
4	石垣市 観光交流推進課					○	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイビング船、係留施設(ブイ)の設置に向けた取り組み ・予算化について(一括交付金の活用について) ・設置場所の検討(川平石崎以外、漁協との協議) 	

5	石垣市水産課	○	<p>(ボランティアに対し) ・堆肥センター搬入時kg/15 円の対応について ・クリーンセンター搬入時1日 /150kgの対応について</p>					
6	八重山マリンレ ジャー協同組合	○	<p>現在までのオニヒトデ対策による事業効果、駆除によりサンゴがどの程度保全されたか公表してほしい。 駆除数や処理費用など、本来のサンゴ礁保全のための駆除から離れた議論が目につくが、駆除によるサンゴ保護の効果を現在どのようにして図っているのか。 効果を数値化する基準の統一が必要と思う。 予算に対して費用対効果という形でもよいが、そもそも現在保全効果というものを図る方法の策定はなされているのか、或いは駆除のみを目的にしているのかが不透明。 また、駆除以外の発生メカニズムの研究や幼生の発生を抑えるための根本的な対策の模索状況なども発表していただければと思う。</p>			○	<p>レジャー業者や漁業者等を対象にした教育が必要と思われる。 また、混雑するポイントの規制や入数規制、係船ブイの設置など早急に対策を打つ必要に迫られていると思う。</p>	

7	WWFジャパン			○	過剰利用の抑制 保護区の設置など			ウミガメ等の混獲について 混獲等の実態調査 混獲防止漁具・漁法の 開発・普及など
8	沖縄県自然保護課	○	オニヒトデ駆除を行うにあたっての課題について各団体から意見を伺いたい。オニヒトデによる死傷事故も発生してしまったことから今後駆除を行う際に安全対策などが必要になるのではないかと。その場合どのような措置が可能か。各団体の対策現状について、駆除従事者の被害頻度についてなど。					
9	石垣の塩					○		
10	石垣市観光協会	○	ダイビング関係者(八重山ダイビング協会、竹富町ダイビング組合)などと連携した、定期的なオニヒトデ駆除作業。オニヒトデの活動範囲調査や、生態についての学習会などもWG内で行いたい。					
11	石垣島海森学校	○	サンゴ礁基金としてGiveOneに登録しているプロジェクトの一つがオニヒトデ駆除事業となっており、毎年事業を行っているため、基金事務局として現状・問題点等把握のため、参加したい。					
12	はいむるぶし							普及啓発

13	個人		<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に資金面の支援が必要な取り組みであるので、効率的な実施が必要。 ・優先度については、必要資金の多さから最優先よりは落とす(二番手?)必要があるのではないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンカーとともに、海域のワイズユースの典型であり、協議会以外の地域の方々への啓発に使える。 ・漁業者の協力が必要な内容であり、協議会本体やWGにおいて漁業関係者の取り組みを紹介するなど、参加しやすい環境(雰囲気)に配慮する必要がある。 ・県、市の水産部局、研究所、海関係の行政機関の支援を要請したい。 ・優先度については高いと考えるが、資金面では関係機関や関係者・企業からの支援が期待できるのではないか(資金面の必要性での優先度は低い?) 	<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源管理とともに、海域のワイズユースの典型であり、協議会以外の地域の方々や外部での啓発やPRに使える。 ・係留ブイの設置について、行政の直接関与が困難な場合は、NPO等公益的な組織が実施してはどうか？ ・優先度については最優先と考える。当初の資金が必要であるが、利用者からの協力金を徴収するなど将来的にはほぼ独立して運営が可能ではないか？ 	
----	----	--	---	---	--	--